

## 論文審査及び最終試験結果報告書

論文博士	地域社会研究科 地域社会専攻 地域政策研究講座		
学籍番号	12GR106	氏名	鐘水 浩
審査委員	主査	平岡 恭一	
	副査	小瑶 史朗	
	副査	猪瀬 武則	
(論文題目)	知識の習得に重点を置いた道德教育の研究 —人間行動の自動性に基づく授業開発—		
(論文審査の要旨)	<p>本研究は、中学校段階の道德教育において道德性に関する知識の習得を図ることが、日常的な道德的な行動の促進につながることを、社会心理学や脳神経科学における人間行動の自動性研究、及び進化生物学における人類の生物的進化研究の知見を中心とした学際的視点によって明らかにしたものである。現在の道德教育は読み物資料を用いて人間の心情面に焦点を当てるものであるため、結果として道德性が現実の生活から遊離してしまい、道德的な実践行動に結びついていかないという問題がある。本研究はこのような問題の解決に繋げようと、より直接的に道德的な行動を促すと同時に反道德的な行動を統制することができるような道德教育の新たな理論的基盤を提唱した。</p> <p>論文内容としては、まず道德的行動を促進するためには、人間行動の自動性を原理とした知識群を習得することが有効であることを豊富な文献を通して考察した。それは具体的には「道德的ステレオタイプの形成」と「ポジティブ感情の形成と言語表象による客観性の獲得」から成る「特性と目標に関連した知識」、そして「知覚的認知バイアス」と「自己利得的認知バイアス」から成る「メタ認知のための知識」である。続いて、これらの知識群を習得するための授業案として、計10にわたる展開例を示した。</p> <p>審査の議論の中では、検証や評価にかんする議論が不十分ではないかという指摘や、地域差を考慮する必要性などの問題点が出された。これらは今後の課題とすべきであろう。</p>		
(最終試験結果の要旨)	<p>知識の習得を重視するという事は、これまでの道德教育では半ば否定されてきたものであるが、本研究においては、科学的知見を基盤に据えるという、これまでになく切り口で展開している。この研究成果は単に道德授業の一つの方法を示すにとどまらず、道德教育において新たな分野を切り開くものとして期待される。以上のことから、審査委員全員一致で博士論文にふさわしいものであると判断した。</p>		